



## リージョンマトリクスの更新

この章では、BATの[リージョンマトリクス (Region Matrix)]メニューを使用して、リージョン (地域) マトリクスの設定または設定解除を行う方法について説明します。リージョンテーブルでは物理的な場所を定義するのに対して、リージョンマトリクステーブルではリージョン内部およびリージョン間の使用可能な帯域幅を定義します。

- ・ [リージョンマトリクスの実装と実装解除, 1 ページ](#)

## リージョンマトリクスの実装と実装解除

BATを使用して、リージョンマトリクスを実装または実装解除します。

### 手順

- ステップ 1** [一括管理 (Bulk Administration)] > [リージョンマトリクス (Region Matrix)] > [リージョンマトリクスの実装/実装解除 (Populate/Depopulate Region Matrix)]の順に選択します。[リージョンマトリクス設定 (Region Matrix Configuration)] ウィンドウが表示されます。
- ステップ 2** [リージョンマトリクスオプション (Region Matrix Options)] セクションで、必要な操作に応じて [リージョンマトリクスの実装 (Populate Region Matrix)] または [リージョンマトリクスの実装解除 (Depopulate Region Matrix)] を選択します。
- ステップ 3** [ジョブ情報 (Job Information)] セクションに、ジョブの名前を入力します。これにより、ジョブの識別が容易になります。
- ステップ 4** ジョブを実行するタイミングとして、[今すぐ実行 (Run now)] または [後で実行 (Run later)] を選択します。
- ステップ 5** [送信 (Submit)] ボタンをクリックします。
- ステップ 6** [ジョブスケジューラ (Job Scheduler)] ウィンドウで、送信したジョブのステータスを確認します。  
必要に応じて、このウィンドウを使ってジョブを再スケジュールすることができます。  
(注) 他のBATプロセスとは異なり、リージョンマトリクスを実装または実装解除するジョブの進捗度は、成功/失敗した、または処理されたレコード数として測定できません。プロセス全体が完了して初めて、結果を確認できます。

(注) レコード数の基準は、このトランザクションには当てはまりません。

管理者はリージョン帯域幅デフォルトを変更できますが、BAT メニューを介してそれを行うことはできません。

(注) リージョン帯域幅デフォルトにアクセスするには Cisco Unified Communications Manager で [システム (System) ] > [サービスパラメータ (Service Parameters) ] の順に選択します。パラメータタイプが Cisco Unified Communications Manager を示し、該当する 4 つのパラメータが [クラスタ全体のパラメータ (Clusterwide Parameter) ] ([システム (System) ] - [ロケーションとリージョン (Location and Region) ]) セクションに含まれます。

---